

国際化学肥料ニュース（2025年7月）

肥料業界の2025年7月動態

- * 7月1日、ラオス国会常務委員会は首都ビエンチャン市内および近隣地域での加里資源調査探索と開発採掘を禁止し、すでに実施している項目を直ちに中止する決定を下した。その背景はビエンチャン市が所在する Khorat 盆地に豊富な加里資源があり、2000 年以降中国資本を始め、加里資源の開発と採掘を急速に進んでいる。2024 年の塩化加里生産能力が約 500 万トンに達した。しかし、急速な開発により環境破壊が起き、今年 6 月 1 日、ビエンチャン市に隣接する Attapu 州 Saysetha 県 Tongmang 村に塩化加里の探鉱による大規模な地面陥落と地滑りが発生し、人命と財産に大きな損害を与えた。
ラオス国会の決定はビエンチャンにある中国資本の Zangge 社と Yuntianhua 社の少なくとも 2 つの塩化加里開発プロジェクトが影響を受ける可能性がある。
- * 7月第1週（6月30日～7月6日）の尿素国際相場は6月中～下旬イスラエルとアメリカによるイランへの爆撃により引き起こされた局面の沈静化に伴い、3週間ぶりに値下げに転じた。ただし、多くの売手と買手は高値への警戒および 7 月 7 日に開札されるインド RCF 社の尿素国際入札の結果を待って、取引がほとんどない状態である。
エジプトはイスラエルからの天然ガス輸入再開により、尿素生産が再開された。大粒尿素の FOB 価格が 455～460 ドル／トンと設定される。イランもイスラエルとの停戦協定により、すでに一部の尿素工場が再稼働され、7 月から輸出も再開される見込みで、すでに FOB 価格が 420 ドル／トンを要求している。インドネシアの Kaltim 社は FOB460 ドル／トンで 3 万トン大粒尿素を販売した。
- * 中国からの消息によれば、中国政府に設定された 5～9 月の尿素輸出割当数量 200 万トンは 6 月末までにすでに 170 万トンを契約済み、すでに輸出されたか「法定検査」の段階に進んでいる。中国窒素肥料工業協会は政府に対して高値の輸出による稼いだ利益を国内低価格販売の損失を補うために、9 月までにさらに輸出割当数量 200 万トンを追加し、計 400 万トンとする要望書を提出した。
また、7 月 9 日の中国政府が設定した尿素の輸出指導価格（FOB 価格）は小粒尿素 440 ドル／トン、大粒尿素 445 ドル／トンである。
- * ベトナムは 7 月 1 日からすべての輸入化学肥料に対して 5% の増增值税を徴収することを始めた。

- * 7月7日に開札されたエチオピア国営 EABC 社の尿素国際入札は21.2万トン尿素を契約した。その約半分が中国産尿素で、7~8月に船積する。
- * 中国はインドへの尿素と DAP の輸出を厳しく規制して、2025年1~5月にインド向けの尿素と DAP 輸出量がゼロである。2024~2025 肥料年度、インドが中国から 84 万トン DAP を輸入して、2023~2024 肥料年度の 229 万トンより大幅に減少した。
インドはりん資源がなく、年間約 1000 万トン DAP が消費され、その半分が輸入品で、残りの半分はモロッコやサウジアラビアから粗りん酸を輸入して国内製造されるものである。中国 DAP が入手できない局面では、2025年6月1日現在の国内在庫量が 124 万トンしかなく、昨年同期の 216 万トン、2023 年同期の 332 万トンより大幅に減少した。
中国依存を打破するため、インドは積極的にサウジアラビア、モロッコ、ヨルダンとロシアから DAP を輸入している。6月インドはヨルダンと CFR781.5 ドル／トンで7~9月の DAP 輸入契約を締結した。前期 4~6 月の CFR 価格 515~525 ドル／トンより大幅な値上げである。また、サウジアラビアの SABIC 社は DAP の CFR インド価格を 810 ドル／トンを要求するという。
- * モロッコ OCP 社の子会社 OCP Nutricrops 社はバングラデシュ国営農業開発公社 (BADC) と戦略的契約を締結し、2025~2026 年にバングラデシュに 110 万トン非尿素肥料を供給する内容である。
- * フィリピン農業省のデータによれば、2025年1~5月のフィリピンが 31.9 万トン尿素を輸入して、前年同期の 26.4 万トンより 20.8% 増加した。主な輸入元はインドネシアから 10.6 万トン、カタールから 6.4 万トン、ブルネイから 4.6 万トン、ベトナムから 1.2 万トンである。
- * 今年に入ってからりん安 (MAP と DAP) の国際価格が上がり続いている。価格高騰の影響を重く受けているのは南米と南アジアである。中国のりん安輸出規制により、6月末の DAP の CFR インド価格がすでに 780 ドル／トンを超え、昨年同期の 630 ドル台に比べ、約 25% 高くなっている。DAP の CFR パキスタン価格が 770 ドル／トン台、CFR バングラデシュ価格も 780 ドル／トンを超えた。南米では MAP の CFR アルゼンチン価格が 800 ドル／トンを超え、CFR ブラジルも 780 ドル／トン台になった。
- * 6月からの中国 DAP の輸出解禁により、多くの問合せと交渉があり、FOB 価格が上昇し続いている。6月中旬に FOB 750 ドル／トンでフィリピンに 0.6~0.8 万トン、イ

ンドネシアに約1万トンを販売したが、6月末に契約した7月分として、FOB760ドル／トンでパキスタンに3万トン、日本に0.5～1万トンを販売した。さらに7月初めの政府指導FOB価格が770～780ドル／トンに上がって、5月の輸出割当数量を決めた際より100ドル以上高くなっている。また、9月までのりん酸肥料輸出割当数量をさらに100万トンを追加する噂がある。

- * Office Des Changesの統計データによれば、モロッコのOCP社は2025年1～5月に490万トンりん酸肥料を輸出した。OCP社の新規りん酸肥料プラントの稼働により2025年のリン酸肥料生産能力が1600万トンに達し、実生産量1380万トン、輸出量1310万トン、世界最大のリン酸肥料輸出国の地位を維持する。
- * 7月7日に開札されたインドRCF社の尿素国際入札は21社が応札して、応札量は東海岸向け169万トン、西海岸向け140万トンの合計309万トンである。最低応札価格はCFR東海岸495ドル／トン、CFR西海岸494ドル／トン。前回6月12日に開札されたインドNFL社の尿素国際入札の最低応札価格399ドル／トンより95ドルも高くなっている。
- * インドの尿素国内消費量が大きく増加して、4～6月の尿素販売量が過去最高の699万トン、6月だけで342万トンを販売し、単月として最高記録を樹立した。

尿素販売量の増加は、今期のモンスーンシーズンの豊富な降雨のおかげである。今年のモンスーンシーズンは5月24日に始まり、2009年以来最も早い記録である。また、6月の全国の降水量は過去平均を9%上回り、7月の降雨量も平年を上回り、過去平均の106%を超えると予測され、農作物の栽培に適する気候条件が続いている。

6月のインド国内尿素生産量は236万トンしかなく、過去2年間の最低である。インドの尿素生産は、2023～2024肥料年度に記録的な生産量を生み出したが、その後維持に苦戦しており、昨年8～9月以降、生産量は低迷している。

国内生産量の減少と相まって、7月1日時点の在庫量は推定660万トンしかなく、前年同期の約1,100万トンに比べ大幅に減少している。従って、インドは、モンスーンシーズン前から尿素の国際入札が相次いで行ったが、必要な量の調達に至らず、夏季に向けて在庫積み増しに苦戦している。

- * ロシア化学肥料生産者協会(RAfp)のAndrey Guryev会長はブラジルのリオデジヤネイロに開催されるBRICSのフォーラムに於いて、過去3年間にロシア産化学肥料のBRICS加盟国への輸出量が60%増加し、これからも増加するだろうと述べた。2019年からロシアは化学肥料業界に1.8兆ルーブル(約230億ドル)を投資して、2024年の

化学肥料生産量が6~7%増の6300万トンに達した。また、2022年まではEUがロシア産化学肥料の最大の輸出先であったが、経済制裁により、輸出量が急減し、逆にBRICSが最大の輸出先となった。特に2024年化学肥料輸出量の約25%がブラジル向けであった。

* イギリスの調査会社Argusのレポートは、2025年上半期に予定されているロシアのUralkali社とEurochem社、ベラルーシのBelaruskali社の塩化加里鉱山と精製工場の大規模なメンテナンスが無事に完了し、生産再開されたと報告した。

今年の初め、Uralkali社、Eurochem社とBelaruskali社は所有の一部の加里鉱山と精製工場に大規模なメンテナンスを行い、約170万トン塩化加里が減産されると発表した。しかし、通関データでは1~5月のロシアとベラルーシの塩化加里輸出量が減るどころか若干増加した。Argusのレポートはメンテナンスの前に増産と在庫量を増やしたこと、メンテナンス期間中の輸出量が影響されていないと推測される。

* 7月第2週(7~13日)の尿素国際相場は再び上昇に転じた。7月7日に開札されたインドRCF社の尿素国際入札は最低応札価格CFR494~495ドル/トンの高値により尿素の国際価格を押し上げた。

東半球では中東産大粒尿素が1週間ぶりにFOB480~482ドル/トン以上に回帰して、FOB505ドル/トンで4.5万トンを販売したメーカーもある。7月第1週のカタールQatarEnergy社のFOB470ドル/トンより10ドル以上も高くなっている。

西半球では、7月7日に開札されたエチオピア国営EABC社の尿素国際入札には21.5万トン尿素を契約した。エジプトは尿素生産再開により、大粒尿素のFOB価格が470~507ドル/トンで数件の販売を契約した。アルジェリア産大粒尿素のFOB価格が515ドル/トンを要求して、ナイジェリアのDangote社は先月の販売入札でFOB430ドル/トンの安値で1件の契約を結び、7月11日にもう1件の販売入札を開札される。CFRブラジル大粒尿素の価格が450~490ドル/トンで安定している。

* 中国政府のインド向けりん安輸出規制に対応して、インド各社がサウジアラビアとモロッコとの間にりん安と重過りん酸石灰の長期輸入契約を締結した。インドのIPL社、Kribhco社とCoromandel社の3社は2025~2026肥料年度(4月から翌3月まで)からの5年間にサウジアラビアから年間310万トンリン酸肥料を購入する契約を締結した。さらに5年間延長オプションも付いている。りん酸肥料の種類は主にDAPだが、NPSも一部含まれる。輸入価格は当時のスポットベースで決定される。なお、通関データによれば、2024年インドがサウジアラビアからDAP188万トン、NPS25万トンの計213万トンを輸入した。

インドの IPL、NFL、Hurl、PPL、RFC、Fact の 6 社が、モロッコの OCP 社と今年末までに DAP150 万トン、重過りん酸石灰 100 万トンを供給することを新に合意した。この合意は、4 月に合意された DAP 120 万トンと重過りん酸石灰 80 万トンに加えて、さらに DAP30 万トンと重過りん酸石灰 20 万トンを追加するものである。輸入価格は市況に沿って計算するという。

- * 中国政府は今週初めに各主要尿素メーカーに 9 月までの尿素輸出割当数量の追加を通知した。5 月下旬に 9 月までの尿素輸出割当数量約 200 万トンを決めたが、6 月末にすでに 170 万トンを契約済み、7 月に輸出されることになる。中国窒素肥料工業協会は中国政府に対してさらに 200 万トンの尿素輸出数量を追加することを要望した。この要望に応える形で、9 月までにさらに約 120 万トンの輸出割当数量を追加した。
- * 6 月 12 日中国とロシア Uralkali 社との間に 2025 年塩化加里輸入基本契約を締結したことを受け、イスラエル、ベラルーシ、ヨルダン、カナダも立て続き中国側と 2025 年塩化加里輸入基本契約を締結した。CFR 価格がすべて 346 ドル／トンである。
- * カナダの加里輸出組合 Canpotex 社はバングラデシュ農業開発公社（BADC）との間に塩化加里の輸出に関する政府間（G2G）契約を新たに更新したことを発表した。2014 年に Canpotex 社は BADC と初めて塩化加里輸出契約を締結してから毎年更新して、2024 年末までに計 400 万トン超のカナダ産塩化加里を供給した。
- * インドがサウジアラビアとモロッコとの間に DAP などりん酸肥料長期輸入契約を締結したことを受け、DAP の国際価格が上がり続き、主要輸出国のモロッコ、チュニジア、サウジアラビアなどは 3 年ぶりに FOB 価格が 800 ドル／トンを突破し、残りのロシア、中国、アメリカも FOB 価格 750～770 ドル／トンに上昇した、特に CFR インド価格が 810～814 ドル／トンとなって、2022 年 9 月以来の高値である。
- * ロシアとベラルーシ産塩化加里の輸出量が回復した。ロシアの統計データによれば、2025 年 1～6 月の塩化加里輸出量が 5% 増の 680 万トンに達し、そのうち Uralkali 社の輸出量が 1% 減の 490 万トン、EuroChem 社の輸出量が 23% 増の 190 万トンである。主要加里鉱山と精製工場のメンテナンス影響で第 2 四半期の塩化加里輸出量が 8% 減の 310 万トンであったが、第 1 四半期の輸出により減少分がカバーされた。一方、ベラルーシは主力加里鉱山の設備更新とメンテナンスで減産したが、在庫量の圧縮で、塩化加里輸出量が 18% 増の 604 万トンで、経済制裁前の水準に回復した。

* 中国税関の速報によれば、2025年6月の中国化学肥料輸出量が44.9%増の429万トン。その内訳は尿素が前年並みの7万トン、硫安が50%増の186万トン、DAPが6.3%増の51万トン、MAPが49.6%減の17万トン。上半期1~6月の化学肥料輸出量が35.9%増の1713万トン。その内訳は尿素が44.2%減の7万トン、硫安が35.1%増の883万トン、DAPが60.4%減の60万トン、MAPが72.5%減の26万トン、昨年から続いている厳しい輸出規制により、尿素、DAP、MAPの輸出量が大幅に減少したが、輸出規制のない硫安だけが急増した。

2025年6月の中国化学肥料輸入量が20%減の76万トン。その内訳は塩化加里が22.6%減の65万トン、NPK化成肥料が増減なしの10万トン。上半期1~6月の化学肥料輸入量が4.9%減の683万トン。その内訳は塩化加里が2.4%減の628万トン、NPK化成肥料が12.6%減の55万トン。

* 7月第3週（14~20日）の尿素国際相場は引き続き高止まりの状態を保っているが、実質の売買がほとんど止まっている。東半球では、インドRCF社の尿素国際入札は合計約147万トン尿素を確保したことで、中東産尿素の470ドル/トン台のFOB価格を下支えている。

西半球では、中国以外の大粒尿素のCFRブラジル価格が470~480ドル/トンに対して、中国産大粒尿素だけが440ドル/トン台の安値で販売される。アルゼンチンはCFR508~515ドル/トンで2万トン大粒尿素を契約した。ナイジェリアのDangote社はFOB465~480ドル/トンで2回計6万トン大粒尿素を販売した。

* イギリスの調査会社Argusのレポートによれば、インドは中国からのインド向けDAP輸出を厳禁することに対応するため、モロッコおよびサウジアラビアとDAP長期輸入協定を締結し、中国代わりの輸入元確保に成功した。7月のDAP輸入量が約109万トンと見込まれ、国内生産量約33万トンに加え、7月の予想消費量約100万トンを約42万トン上回り、7月末の在庫量が200万トン近くになる見込みだ。また8月には既に56.2万トンDAPの輸入が予定されており、前年8月の21万トンを大きく上回っている。

DAP在庫増加により、インド政府の肥料局（DoF）は現在、輸入業者に対し、7月下旬に複数の売買が終了に至ったCFR価格である810米ドル/トンを超える価格でDAPを購入しないよう要請した。

* 7月24日、インドIPL社が新たに尿素国際入札を発表した。8月4日締切りと開札、購買数量は東海岸向け100万トン、西海岸向け100万トンの計200万トン、9月22日までの船積みという条件である。これは今年インド5回目の尿素国際入札である。前回

7月7日に開札されたインド RCF社の尿素国際入札の最低応札価格は CFR 東海岸 495 ドル／トン、CFR 西海岸 494 ドル／トン、200 万トンを購入する予定であったが、147 万トンだけ確保した。国内旺盛な尿素需要を満たすために前回と 2 週間しか空けず、再度尿素国際入札を行うわけである。

* 7月25日から中国政府は10kg以下の小袋包装化学肥料輸出を厳しく管理することになる。中国税関からの噂によれば、7月28日から来年4月30日まで10kg以下の小袋包装化学肥料の新規輸出「法定検査」を受付しないことになる。昨年から中国尿素、りん酸（DAP + MAP）、硫酸加里、化成肥料などの輸出規制が厳しくなるが、一部の輸出業者は規制の少ない10kg小袋包装を利用して、化学肥料の輸出を続けている。この抜け道を塞ぐために新しい規制措置を発動する訳である。

* バングラデシュ農業省はバングラデシュの民間部門が行う DAP、MAP、重過りん酸石灰および塩化加里の国際入札を許可した。8月5日に行う予定の入札を通じて、50 万トン DAP、20 万トン重過りん酸石灰、25 万トン塩化加里、2 万トン MAP を購入する予定である。落札者は9月20日までに積地港から出港し、バングラデシュの Chattogram 港、Narayanganj 港、Nagarbari 港と Noapara 港に納入することを要求する。支払い外貨の問題により、予定された国際入札が遅れた。

一昨年まではバングラデシュの化学肥料輸入はすべて国営企業が担当していたが、2024年8月に発生した前大統領の亡命により、化学肥料の輸入が民間企業にもできるようになり、昨年から民間の入札を通じて化学肥料の調達輸入が恒常化になった。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

* 中国の正元化工社は河北省滄州市に新たにアンモニアと尿素工場を建設する。総投資額 28.84 億人民元（約 4.03 億ドル）、年間生産能力 40 万トンアンモニアと 52 万トン尿素。2026 年完成、稼働する計画である。

* イラクの電力会社 KEPPT 社はイラクに尿素工場を建設する計画を発表した。設計アンモニア生産能力 2300 トン／日、尿素生産能力 3850 トン／日、アメリカの KBR 社は基本設計（FEED）を担当する。

* アメリカの Mosaic 社はブラジルのトカンチンス州 Palmeirante 市に新たな BB 肥料工場と倉庫、配送センターなどを完成し、今月に稼働させることを発表した。自動化さ

れる配合と袋詰めシステム、大規模倉庫と Itaqui 港への直通鉄道を有する Palmeirante 肥料総合施設への投資額が 8400 万ドル、年間 100 万トン BB 肥料を配合、出荷する能力があり、急成長を遂げているブラジル北部地域の農業生産を支える。

* カナダの Upcycle Minerals 社はサスカチュワン州中南部で、硫酸加里の生産とともに炭素を回収するプロジェクトの正式着工を発表した。当該プロジェクトは溶解採掘技術を使用して、Upcycle Minerals 社が所有する Tuxford 加里鉱山から鹹水を抽出して硫酸加里を生産し、二酸化炭素を回収して硫安および沈降炭酸カルシウムの副産物を得るプロセスを採用する。第一フェーズでは年間生産能力 5 万トン硫酸加里と 4~4.5 万トン硫安、第二フェーズでは生産能力を 15~20 万トン硫酸加里に拡張する計画である。完成と稼働時期が未定。

その他

* カナダの First Phosphate 社はケベック州 Saguenay 港に精製りん酸工場を建設するために Saguenay 港湾当局との間に工業用地オプション契約を締結したことを発表した。当該精製りん酸工場はベルギーの Prayon SA 社の先進的なクリーン技術を活用し、イタリアの Ballestra SpA 社が施工し、生産されたりん酸は LEP（リン酸鉄リチウムイオン電池）の正極材料の原料とする予定である。2028 年に完成する計画である。